

第16回外務省政策会議

(概要記録)

日時：2月10日 午前8:00～9:00

場所：衆議院第2議員会館 第4会議室

出席議員の概数：20名程度

議題：

- (1) 武正副大臣の出張(ミュンヘン安全保障会議)
- (2) 課題別意見交換『グローバルに展開する外交/世界経済』
(アフガニスタン・パキスタン支援、イラン、アフリカ、EPA・WTO)
- (3) その他

・外務省からの報告

1. 武正副大臣の出張報告(ミュンヘン安全保障会議)【武正副大臣】

配付資料に基づき説明。

2. 課題別意見交換『グローバルに展開する外交/世界経済』【事務方】

アフガニスタン・パキスタン支援、イランの核問題、アフリカ外交、EPA・WTOにつき、配付資料に沿って、概要を説明。

・質疑応答

1. アフガニスタン・パキスタン支援

(質問・コメント)

- ・「元タリバーン末端兵士の社会への再統合支援」として103億円の予算を計上しているが、実際に何名の外交官が現場に行き、作業に当たっているか。再統合支援は、今後どのように行っていくのか。パキスタン支援について、どう取り組んでいくのか。
- ・アフガニスタンの避難民帰還に関して、どの国にどの程度の人々の移動があるのかが分かる資料を提供してほしい。

(回答：事務方)

- ・治安情勢があり、すべての支援活動に人を派遣することはできないが、我が国はDIAG(非合法武装集団の解体)やNSP(国家連帯計画)に対して支援を行っている。特にDIAGでは大使館員が出張する場合もあり、現場と緊密に連携している。再統合支援については今後詳細を決定する。パキスタン支援については、武装勢力の大半が南ワジリスタン管区で活動している

点から、同国の治安問題はアフガニスタンと一体としてとらえることが必要。

2. イラン

(質問・コメント)

- ・ イランの核問題に関して、進展しない理由を分析すべき。特にイスラエルの核に対する動きや、I A E Aのダブルスタンダードについても検討する必要がある。イランの核問題に対して日本はどのように取り組んでいくのか。

(回答：事務方)

- ・ ミュンヘン安全保障会議にはモッタキ・イラン外相が出席し、天野 I A E A 事務局長らと会談を行った。イランにも核の平和利用の権利はあるが、核保有については世界の秩序がある。イランは国際社会との信頼醸成を構築し、連携していく必要がある。

3. アフリカ

(質問・コメント)

- ・ 鳩山総理の所信表明演説にある「いのちを守る」という姿勢を、我が国の対アフリカ外交にも反映すべき。
- ・ アフリカにおける資源外交において、日本が他国に劣後しているとすれば何故か。資源の乏しい日本として、民間の活力も活用しつつ、レアメタル開発など経済開発に積極的な軸足を置くべきではないか。
- ・ 現在、日本が本当に動かせるアフリカの国があるか。アフリカ連合(AU)での影響力を含め、現在アフリカで強い指導力を持つ国はどこか。そのような国との関係を強化すべき。

(回答：福山副大臣・吉良政務官)

- ・ 「いのちを守る」という考え方は、然るべく反映させていきたい。保健・衛生や水、能力開発など、アフリカの開発は、まさに「いのちを守る」とことと表裏一体。
- ・ アフリカにおける影響力の大きい国や重点国の見極めを含め、対アフリカ外交については現在、過去の政権の施策も検証しつつ、見直しているところ。積極的・建設的な意見を是非いただきたい。

4. EPA・WTO

(質問・コメント)

- ・ 5つの広域経済連携構想について、今は過渡期であり、様々のオプションを

探っているところだと思うが、それぞれのメリット、デメリットを整理して今後の方針を決めるべき。

- ・ 二国間EPAのみでなく、多国間の取り組みを含めた全体的方針が必要。

(回答：福山副大臣・吉良政務官)

- ・ EPAについても、現在、過去の政権の施策も検証しつつ、見直しているところ。建設的な議論を行うため、これからもご意見を賜りたい。
- ・ 広域経済連携及び全体的方針については、経済安全保障、アジア内需の観点等を踏まえ、外務省としても検討していく。

5. 核軍縮

(質疑・コメント)

- ・ パリで開催された「グローバル・ゼロ」では、拡大抑止に関する米軍の見直しは不透明だという印象を受けた。米国が核抑止とミサイル防衛をどのように運用していくか、外務省として米国の動向を注視していくことが重要。

(回答：武正副大臣)

- ・ 米国の核態勢見直しは未公表なので、米国としても今の段階では歯切れが悪いのかもしれない。いずれにせよ、外務省として米国の核抑止等に関する動きを注視していく。

6. パレスチナ自治政府大統領の訪日

(質問・コメント)

- ・ アッバース・パレスチナ自治政府大統領の訪日について、説明と資料の提出を求める。

(回答：武正副大臣)

- ・ 自分も首脳会談に同席したが、先方から我が国の積極的な支援に対する謝意が表明された。日本側からは、昨年末に行った日本・アラブ経済フォーラムなど、我が国とアラブ世界との独自の取組について紹介した。昨日(2月9日)外相会談を行っており、後ほど資料をお届けする。

(了)